

令和4年3月期・決算分析資料-その2(売上が日本一少ない上場企業はどこか?)

(売上が日本一少ない上場企業はどこかそのランク、売上日本一多い企業、日本一の赤字企業と黒字企業、

利益予想が当たらない日本一の企業 等々)

これまで3月決算期の予想と実際の乖離状況についての分析内容を公開してきましたが、継続事項として、4,3月期の以下項目についての分析結果を公開いたします。

1 売上が日本一少ない上場企業はどこか、上場していて年間売上が4億円台とのこと、信じられますか?(1位から20位まで記載)

順位	企業名	売上高(億円)	純利益(百万円)	順位	企業名	売上高(億円)	純利益(百万円)
1	DNAチップ	4	-134	11	ぶらっと	12	-33
2	テクノマセマ	5	-70	12	オーブンドア	12	-544
3	エコナック	7	-22	13	武蔵野	12	50
4	北日紡	8	-128	14	フラクタル	13	-77
5	ソケッツ	8	-150	15	宮越	14	658
6	エルミック	8	69	16	フトレック	15	133
7	クボテック	10	-121	17	DLE	16	-65
8	省電社	10	-333	18	フレンドリ	17	-158
9	アジア開発	10	-1,988	19	Pバン	19	137
10	Sサイエンス	11	-329	20	シンクロ	19	339

通常、売上が多い企業はどこかについて、分析発表するのが、一般的かと思われますが、趣向を変え、日本で売上が一番少ない上場企業はどこか、その順位を発表します。(3月決算に限定)

皆様、驚くかもしれませんが、日本の上場企業で売上が一番少ない会社は、DNAチップ社で年間売上高4億円です。売上トップ・トヨタ31兆円のなんと80,000分の1なのです。

上場会社と言えば、通常売上何百億円、何千億円というイメージがありますが、4億円とか10億円でも上場できているということは、他社にない特別の経営力、経営ノウハウを有している会社ということなのでしょうね。

全国の中堅企業のトップの皆様、このことは、年間売上4億円台でも、経営のやり方によっては、上場できるということを示していることとなりますが、貴社も会社のより一層の成長と社会的評価を高めるため、上場を検討してみても如何なものでしょうか

2 逆に売上日本一の企業はどこか、1位から20位まで記載

順位	企業名	売上高(億円)	純利益(百万円)	順位	企業名	売上高(億円)	純利益(百万円)
1	トヨタ	313,795	2,850,110	11	丸紅	85,085	424,320
2	三菱商事	172,648	937,529	12	日産自動	84,245	215,533
3	ホンダ	145,526	707,067	13	豊田通商	80,280	222,235
4	伊藤忠	122,933	820,269	14	パナソニック	73,887	255,334
5	NTT	121,564	1,181,083	15	日本製鉄	68,088	637,331
6	三井物産	117,575	914,722	16	出光興産	66,867	279,498
7	日本郵政	112,647	501,685	17	ソフトバンクG	62,215	-1,708,029
8	ENEOS	109,217	537,117	18	ソフトバンク	56,906	517,517
9	日立	102,646	583,470	19	デンソー	55,155	263,901
10	ソニー	99,215	882,178	20	住友商事	54,950	463,694

①ダントツのトップは自動車のトヨタが31兆3795億円、以下、三菱商事、ホンダ、伊藤忠、NTT、三井物産、日本郵政、日立、ソニー等日本を代表する企業が名を連ねている。

売上が多いから利益も多いという会計原理に沿った結果であり、誰にも、理解しやすい内容である。

②一方、17位のソフトバンクGという、売上の大小に関係なく、売上が増えようが減ろうが、売上とは無関係な桁外れの赤字を計上し、日本一の赤字会社になってみたり、かと思えば日本一の黒字会社になってみたり、

しかも、会計ルールに沿った会計処理なので、会計監査も適正との企業も存在する。
 会計のプロの、公認会計士の皆様、会計学者の皆様、これが会計のあるべき姿なのでしょうか、
 内心、もやもやとし、納得していないではありませんか？

3 次に、「**日本一の赤字企業**」はどこか、1位から20位まで以下に列挙します。

順位	企業名	純利益 (百万円)	売上増減 (億円)	順位	企業名	純利益 (百万円)	売上増減 (億円)
1	ソフトバンクG	-1,708,029	12,215	11	セブチ	-39,844	31
2	JAL	-177,551	-833	12	中国電	-39,705	176
3	ANA	-143,628	-397	13	日揮	-35,551	-416
4	JR西日本	-113,198	-209	14	石油資源	-30,988	134
5	東北電力	-108,362	1,244	15	サワイ	-28,269	-26
6	日医工	-104,984	-60	16	コニカミノルタ	-26,123	114
7	JR東日本	-94,948	-781	17	日本空港ビル	-25,217	-125
8	日野自	-84,732	-3	18	三井造	-21,825	-107
9	JR東海	-51,928	-729	19	河西工	-19,032	11
10	中部電	-43,022	1,051	20	千代建	-12,629	111

前項でも述べたが、ダントツの赤字は、ソフトバンクGの1兆7080億円であるが、2位のJALの10倍の赤字である。

更に注目すべきことは、今年度赤字トップのソフトバンクGは、なんと昨年は、4兆9879億円の黒字日本一だったのである。このような事態になることは、経営トップ、財務トップの方々も決算説明会のコメント、関係役員のコメントによれば、予測できなかったとのことである。

4 「**日本一の黒字企業**はどこか、1位から20位まで記載

順位	企業名	純利益(百万円)	順位	企業名	純利益(百万円)
1	トヨタ	2,850,110	11	川崎汽船	642,424
2	NTT	1,181,083	12	日本製鉄	637,331
3	郵船	1,009,105	13	日立	583,470
4	三菱商	937,529	14	ENEOS	537,117
5	三井物	914,722	15	ソフトバンク	517,517
6	ソニー	882,178	16	日本郵政	501,685
7	伊藤忠	820,269	17	信越化	500,117
8	商船三井	708,819	18	任天堂	477,691
9	ホンダ	707,067	19	住友商	463,694
10	KDDI	672,486	20	東エレク	437,076

本項は、各業界を代表し、日本を代表する企業の黒字企業であり、納得、理解しやすいのではと思われる。

5 次に、業績予想と実際の精度に関して「予想と実際を比べ予想が当たらない日本一の企業はどこか」判断基準として企業が発表した利益予想額と実際を比較し、その差額の多い順にリストを作成しましたので、ご覧いただきたいと思います。

①赤字差額ランク(予想した利益に比べ赤字が増えた企業)

順位	企業名	利益予想誤差 (百万円)		順位	企業名	利益予想誤差 (百万円)	
1	ソフトバンクG	-2,208,029		11	JAL	-31,551	
2	日野自	-99,732		12	新日本建	-29,204	
3	日医工	-86,384		13	PHCHD	-28,710	
4	東北電	-63,362		14	コニカミノルタ	-27,623	
5	アステラス	-49,914		15	Jパワー	-23,696	
6	サワイ	-47,769		16	旭化成	-23,620	
7	ANA	-43,628		17	富士通	-22,309	
8	セ硝子	-42,344		18	JR東海	-21,928	
9	デンソー	-37,099		19	NOK	-21,861	
10	エムスリー	-36,155		20	九州電	-18,127	

期末の1ヶ月前に予測した予想利益に対し、その乖離状況についてであるが、ソフトバンクGは、予想に対したった1ヶ月前の予想数字との比較なのに、予想より2兆2080億円も赤字が増加していますが、ソフトバンクという会社は、利益予想が当たらない日本一の会社ということになるのである。
上場企業で現実に決算業務を担ってこられた他社役員の皆様、公認会計士の皆様、会計学者の皆様、たった1ヶ月前でも、予測はできないということになります、如何でしょうか。

日本を代表する企業であっても、利益予想が当てにならないナンバーワン企業になるということなのです。そして、全ての企業が、会計、企業経営の基本である「利益予想ができる企業なのか、できない企業なのか」が問われているのです。
利益予想、業績予想等表現はともかく「将来を見通せない企業はいずれ破綻する」「利益予想ができない企業はいずれ、いきなり破綻する」が私の基本的考え方ですが、上場企業において現実に決算業務を担当されてこられた役員の皆様のご意見は如何でしょうか？

②黒字差額ランク(予想した利益に比べ黒字が増えた企業)

順位	企業名	利益予想誤差			順位	企業名	利益予想誤差
		(百万円)					(百万円)
1	トヨタ	360,110			11	三井物	74,722
2	SBI	299,599			12	NEC	71,277
3	ENEOS	257,117			13	TDK	70,632
4	川崎汽	122,424			14	JR東日本	65,052
5	三菱商	117,529			15	出光興産	59,498
6	日本製鉄	117,331			16	大ガス	50,756
7	NTT	81,083			17	東電	46,640
8	郵船	79,105			18	東芝	44,651
9	商船三井	78,819			19	イサム	44,192
10	任天堂	77,691			20	リクルート	38,333

①本項については、前項のソフトバンクGのような桁違いの異常な企業がないので、違和感は少ないように思われるが、見る人から見て、たった1ヶ月前の予測でも、こんなに乖離があるものなのか、の思いは避けられないのではと思われる。

**②日本を代表する企業であっても、こんなに乖離があることについて、本当に、利益予想は可能なのか否かについて、
会計の世界、実務の世界では、遺憾ながら未だに結論は出ていないということを、今回の結びの言葉としたい。**

(注記)上記の「利益予想誤差」について

利益予想誤差とは、一年前・半年前の予想でなく、期末1ヶ月前に各企業が公表した業績予想数字と実際の純利益とを比較したその差額です。差額の絶対額が少額であれば、予想精度が高く、反対に絶対額が大であればあるほど、予想精度が低いか、予想そのものが不可能な企業ということになり、公表した予想数字が当てにならない企業ということになります。

令和4年9月

伊戸川 匡